THE Y'S MEN'S CLUB OF FUJI
ふじ
CHARTERED 1988
101
第 33 期 2020 年 7 月～2021 年 6 月
THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS
「強い義務感を持とう！　義務は全ての権利に伴う」

2020 年　クラブ主題　　何事も、楽しんでいきましょう

2021年2月号

国際会長主題　価値観、エクステンション、リーダーシップ

アジア会長主題　変化をもたらそう

東日本区理事主題　変化を楽しもう！

富士山部長主題　ワイズだから出来る事が有る！粋にやろうぜ！富士山部！

富士会長主題　何事も、楽しんでいきましょう

第 33 期クラブ役員

会長	高野　亨	監事	井上暉英
A 副	小澤嘉道	監事	鈴木靖巳
書記	吉澤廣美	監事	増田　隆
会計	仲澤昭夫	担当主事	金井淳

2月の協調テーマ　「TOF」　Time of Fast(断食の時)の略称で、クラブ例会での食事を抜きその金額相当分国際協会に献金する。献金は世界中のYMCAから募集して国際協会が選定する。発展途上国を主たる対象とする地域支援プロジェクトに用いられる

☆2021 年2月例会　中止☆
2 月役員会　中止

HAPPY BIRTHDAY

2 月 2 日　漆畑　義彦君

巻頭言

コロナ禍の中で　　吉澤廣美

ワクチン接種が医療関係者に今月の末頃から始まるということですが、まだまだ安心は出来ず、コロナウイルスの終息は見えてきません。新型コロナウイルスが猛威を振るい大変な 1 年になってしまいました。私は薬局経営者ですが、手洗い、うがい、マスク、3 密（密閉、密集、密接）を避けるなどを実行すれば、かぜ、インフルエンザは予防できることが確認されました。それによって小児科、耳鼻科に係る患者数が激減しています。予防医学からは良い実証になったのではないでしょうか。災い転じて福となす。人との交流が断たれ、メンバーと会うのも疎遠になっています。ワイズの事業はじめ、地域の各行事が全て中止の状態です。役員任期では「もう一期やってください」の声も出たりしています。この様な中で外出も少なく、自分の時間が持てるようになり、私はウオーキングや腕立て伏せで体作りを心掛けています。筋肉は裏切らない。

新たな生活様式で新型コロナウイルスを撃退し、その後の飲みニケーションを楽しみにしております。

月例会

在籍会員	15 名	例会出席者	名	スマイル基金	円	CS 基金	円
功労会員	1 名	出席率	%	スマイル累計	29,000 円	CS 累計	2,965 円
担当主事	1 名	ゲスト	名	ビジター	0 名	総出席者	名

寄　稿

小澤　嘉道

突然、増田ワイズから原稿依頼の連絡がありました。「小澤さん、2月ブリテンの掲載原稿、話題は何でも構わないので書いてくれない？」文才の無い私ですが、快く受けさていただいた。

コロナ禍で例会は無く、役員会は無く、行事も無く、富士山部会も中止となりワイズの話題はほとんど無く、ないない尽くしの中で休刊も無く、毎月届くブリテン作成に悪戦苦闘される増田ブリテン委員長には本当に頭が下がります。断ることはできませんでした。モチベーションは下がる一方！唯一ブリテンだけがワイズの繋がりを感じます。

テレビをつければ新型コロナにまつわる暗いニュースが多い。そんな中、家に関することなら何でもお任せの私に明るい話題がありました。昨年の５月から始めた築50年ほど経つお宅のネズミ駆除、専門業者と月2～3回のペースで外回り、天井裏に潜り込み駆除剤を置き進入路を塞ぎチェック！手を変え品を変え過去の例、半年後にはミッション終了を信じ、途中弱音を吐きつつ９カ月、その時は来ました。「ま～何て言うことでしょう！」遂に撃退！だと思う。いや思いたい。そんな緊張感あふれる庶民の明るい話題です。

そう言えば、緊急事態宣言発令を決議したにも関わらず、等の国会議員様たちは、夜ごと高級店での会食三昧。命を懸ける医療従事者、資金繰りに悪戦苦闘する飲食業界、庶民の声は届いているのかな？

話は替わり実は私、小澤、来季会長予定です。そろそろ構想練らなくては。

水仙（スイセン）

富士市永田町の公園に凛と咲くスイセン

水仙（スイセン）はラッパのような花で春を知らせる球根花。花言葉は「自己愛」「神秘」。黄色のスイセンの花言葉は「私のもとへ帰って」。白のスイセンの花言葉は「神秘」。ラッパスイセンの花言葉は「尊敬」
スイセンには毒性があります。葉はニラに似ていて、球根は玉ねぎと似ています。食用の野菜などの近くには植え込まないよう気を付けてください。

この冬　やっと冠雪した富士山

このように遅く冠雪した富士山は、私の記憶では初めてです(2021年1月28日富士市中央町付近より)

マイタイム

匂い　　増田　隆

朝晩、我が家の近くを流れる川沿いの堤防と、その周りを愛犬と散歩しています。よほどの雨が降らない限り、5年以上は続いています。最初の頃は愛犬をリードしていましたが、最近は愛犬にリードされるようになり、そこに引っ張られている無様な私がいました。しかし散歩中は四季折々の木々、草花、水面に戯れる鴨の親子、と自然が満載。目に、耳に、本当に癒されます。最近は散歩中、匂いが気になります。夕方の散歩は途中の「うなぎ屋」のあの香ばしい匂い、その先の「ラーメン屋」の湯気、その先の「かつ丼屋」の甘い匂い、と食欲そそる匂いは生活の匂いがプンプンします。しかしその匂いだけでは満腹になりません。（残念！）今年の冬は早朝の寒さは身に染みて応えます。しかし、愛犬の元気な散歩についていくのがやっとな私ですが、路傍のロウバイが花香を放ち、冷気から冬という匂いを感じ取り、立春も過ぎ、公園の片隅に凛と咲くスイセンが早春を告げています。このように自然を感じ取る時、春が待ち遠しいですね。国内のコロナ初感染確認から１年が過ぎマスク姿が必須となった現在、早くこのコロナから解き放たれて、マスクが不要になり、本当の四季折々の匂いを思う存分嗅げる日はいつ来るのでしょうか。
活動が停滞している我が富士ワイズメンズクラブも、ここ数か月例会、役員会、事業等がなく、会員の疎通もありません。参加できるメンバーがリモート飲み会や、会議を実行していますがまだ本格的ではないようです。
コロナ前の富士ワイズメンズクラブの活発で独得な、泥臭い「匂い」が、このままの状態が続くとだんだん薄れていくのではないかと危惧するのは私だけでしょうか。
ウイズコロナの時代は、富士ワイズメンズクラブとして奉仕と友好をさらに実行し、変革なくして生き残れないことを肝に銘じコロナ前の「匂い」を絶やさないように歩みを進めて行きましょう。

東日本区理事通信　　**第８号**　　（抜粋）

理事メッセージ　　東日本区理事　板村　哲也

暦ではあと２日で春が訪れます。そう思うと寒くても何となく気持ちが明るくなります。日差しも変わってきました。

11 都府県での緊急事態宣言により新型コロナウイルスの感染確認者が減ったとは言え、昨シーズンとは比べものにならない高水準で推移しており、感染拡大に歯止めがかかっていません。コロナに馴れたり麻痺したりすることのないよう、気を引き締めて行きましょう。さて、このような状況下でも、明るいニュースがありました。１月に７クラブで計９名の方が私たちの仲間になりました。おめでとうございます。新しい皆さまが私たちと一緒にワイズライフを楽しまれ、クラブ、部、区が発展することを期待しています。

なお、昨年 12 月末までの入会者は 33 名、退会者（逝去を含む）は 25 名で、会員純増は８名で、今年１月１日現在の会員数は 838 名となりました。

２月は毎年皆さまに諸献金のご協力をお願いしています。献金は自由で強制ではありませんので行うか否か、またその金額については各クラブの方針でお決めください。コロナ禍で奉仕活動が思うに任せない状況ですのでその分、経済面（金銭面）で貢献を行うのも一つの取り組み方かと思います。献金目的はハンドブック７頁に掲載していますが、今年度は新たにＰＷＡＬＰ（ポール・ウイリアム・アレキサンダー遺産計画）のための献金を設定していますのでよろしくお願い致します。（締切：２月 15 日）３月は東日本大震災から 10 年となります。東日本区では東日本大震災 10 年行事を行います。皆さまの引き続きのご協力を宜しくお願い致します。皆様にはこれからもどうぞ技自愛ください。

★東日本大震災 10 年事業

東日本大震災支援対策本部長　　板村　哲也

今年３月 11 日で東日本大震災から 10 年となります。これまで復興支援活動を続けてこられたクラブのみなさまに感謝申し上げます。私たち東日本区も記憶を風化させることなく、しえんかつどうをつづけなければなりません。今年度は東日本大震災発生 10 年という事で下記の事業を計画しています。

（1）3.11 礼拝と追悼の集い（３月 11 日於石巻）これまで復興支援活動を続けてきた仙台の 4 クラブ（仙台・仙台青葉場城・仙台廣瀬川・石巻広域クラブ）が中心となって、ＹＭＣＡ、東日本区と合同で 3.11 礼拝と追悼の集いを行います。全国のワイズの皆さま、ＹＭＣＡの皆さまにオンラインで参加いただく予定です。

（2）献金（３月 11 日於石巻）東日本区としての献金を行いますが、皆さまからの献金も募ります。

（3）「東日本大震災 10 年誌（仮称）」

東日本大震災発生後 10 年という一つの区切り二、「東日本大震災 10 年誌」を発行する予定で、先日、田中博之さん（東京多摩みなみ）を編集委員にお願いし、活動を開始いたしました。東日本区の 10 年間の東日本大震災被災地・被災者支援活動の記録の他に、各部、各クラブ、各メンバーからの寄稿が掲載される予定です。追って、編集委員会から寄稿の依頼がありますので、皆さまのご協力をどうぞよろしくお願い致します。

Ｃｈａｎｇｅ！２０２２ニュース

アンケート結果に思う　（抜粋）　No. 19

元東日本区書記　櫻井　浩行（東京むかで）

東日本区誕生から 24 年が経ち、この間にリーマンショック、東日本大震災、新型コロナウイルス世界的感染と様々な災害が続いている昨今、今や従来の価値観ではどうにもならない社会変化が生じています。

四半世紀を期に大改革をしなければワイズは生き残れない！という危機感の中、私が個人的に思うことを述べたいと思います。『Change！2022　Action　プラン』アンケートの結果と問いに対する私の理解と考えを【　】内に纏めてみました。

問１　会員がワイズに求めるものは？

【奉仕と友好】

問２　今のままだとワイズの将来はどうなるのか？

【変革なくして生き残れないと思う。】

問３　ワイズの存続は

【ぜひ残したいが、東日本区が基本的に改革しなければならない。各クラブに問題を振らず、区が模範を示さなければ残念な結果になると思う】

問４　将来的に期待するクラブ像は？

【各クラブ多様化の前に、東日本区が基本を変革する見本を示すことが重要。その後に各クラブは各地域の条件に合った姿に自然に動いていくと思う。】

問５　ワイズの諸活動、行事にキリスト教の儀式（聖句朗読、祈祷、ワイズソング）が必要と思いますか？

【キリスト教信者だけでなく、ワイズ活動の趣旨に共感して入会した人々の考えや気持ちを尊重することが重要。宗教度について、例えばワイズ活動では 25%、YMCA では 50%、教会では 100%と捉えてみてはどうか？聖句朗読や祈祷は省略することに賛成。ワイズソングはクラブのシンボル＝テーマソングなので斉唱する事は良いと思うが「手を挙げ」の歌詞に合わせて右手を挙げなくても良いと思う。】

ワイズの良さは、定款にある≪性別、人種、信仰、出身国などを理由として会員の地位を拒まれる事は無い≫に尽きるのではないでしょうか。

（東京むかでクラブブリテンより）

国際会長ニュース

命の川を信じよう

第８号　2021 年２月　（抜粋）

会員の皆さまへ

本号では、今月の２つの重点分野である「ユース海外短期交流プログラム（STEP）」と「タイム・オブ・ファスト（TOF）」に加え、恒例の「IHQ からのニュース」と「良い話を伝えよう」を掲載しております。

最初に、私に大きな刺激を与えてくれたラッセ・ベアグステットの話をしたいと思います。ラッセと私は、1981 年にオスシマランズ・ワイズメンズクラブを立ち上げたグループに所属していました。クラブの発足時私たちふたりは、チャーター会長になることが検討されていましたが、コインを投げて決めることにした結果、ライズが勝ったのです。クラブは彼のリーダーシップの下で繁栄し、現在では 40 周年を迎えています。会員たちは、長年にわたって、他の人を助けるための仲間意識と良い活動を大切にし、特に地元のボーイスカウトや国内外の人道的プロジェクトを支援してきました。毎年クラブでは、約 100,000 デンマーククローネ（16,300 米ドル）を配っています。このお金は、毎年の新聞くじの発行、果物や野菜(特にイチゴやネギ)の栽培・収穫・販売、クリスマスの植物販売、市場での支援活動などから調達されています。彼は 1991 年にデンマーク区理事二就任し、1991 年から 2001 年まで、リーダートレーニングの役割を担いました。彼は両方の役割に於いて非常に優れたいたことが証明されました。その後、より大きな仕事として、2007/08 年の国際会長に選出されました。これをきっかけに私も彼の進んだ道を追いかけるようになりました。

ラッセルはしばらく前から体調を崩していて、ワイズの活動に参加すことはできていません。クラブはアストルプ教会で彼の功績を称えて礼拝を行いましたが、私も彼がワイズメンズクラブ国際協会に与えた長い間の貴重な奉仕に敬意を表明することができました。

私はまた、彼に国際会長賞を授与する事ができましたが、この賞の盾には次のような言葉が刻まれています。「ワイズメンズクラブ国際協会は彼の、私たちの運動おける卓越したリーダーシップと人類への奉仕を深く評価しています」ラッセは、この集まりには参加できませんでしたが、コロナ禍による制限がなくなったら彼が住んでいる老人ホームを訪問して、賞を手渡すつもりです。

ジェイコブ・クリステンセン
2020－21 国際会長

TOF　２月強調月間テーマ

1970 年 12 月 13 日、第１階「断食の日」が開催されました。3974 米ドルの寄付金が集まり、難民プログラムのために世界 YMCA 同盟に寄付されました。TOF は 1972 年に導入されて以来、YMI の主要なプログラムとして発展してきました。このプログラムのコンセプトは、ワイズメンズクラブ国際協会の会員が少なくとも一食分の食を抜き、その食事代を基金に寄付するというのです。TOF の取り組みは、地元と国際の両方に影響を与えます。そのプロジェクトは国連の「持続可能な開発目標」（SDG ｓ）のうちの少なくとも１つに沿ったものでなくてはいけません。ワイズメンズクラブ協会協会は、TOF の重要なプロジェクトの年間 130,000～200,000 米ドルを支援しています。２月は TOF 月間で、食事を抜いて、困窮している人たちを支援します。

オルガ・ボズチコバ
TOF 国際事業主任

YMCAだより

富士山 YMCA　　金井　淳

富士山 YMCA はじめ、全国の YMCA では、世界的ないじめ反対運動「ピンクシャツデー」に取り組んでいます。カナダでピンクのシャツを着てきた男の子が「ゲイ」だといじめられたときに、その友人たちがみんなピンクのシャツを着て、いじめをなくしたというエピソードがきっかけです。毎年２月の最終水曜日（2021 年は２月 24 日）のピンクシャツデーに合わせて、スタッフや会員、子どもたちがピンク色のものを身につけ、いじめ反対をアピールするとともに、一人一人にできることを考えます。

２月 23 日の「富士山の日」は、富士山 YMCA では「静岡県民・山梨県民感謝デー」として、静岡県・山梨県在住の中学生以下の日帰り入場料が無料となります。ぜひ皆様のお子さん、お孫さんと遊びに来てください。その際には、ピンクのものを身につけ、いじめ反対のアピールをしていただければと思います。

2021 年２月　富士山と月（富士山ＹＭＣＡから望む）

お知らせ

東日本区より

・次期会長・部役員研修会はオンラインでの研修会となりました。３月６日（土）を予定しています。
・CS お年玉年賀切手シートの扱いについては、年賀状の当選で得た年賀切手シートは東日本区事務所へ２月中に送付してください。（過去分のシートも可）送って頂いた切手分を CS 献金にプラスします。